

島根原子力発電所第2号機 工認記載適正化箇所(中央制御室の居住性)

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
1	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.4	設備の共用に関する記載を追加しました。(下線部参照) (旧)中央制御室 (新)中央制御室(「1, 2号機共用」(以下同じ。))  (旧)中央制御室遮蔽(「1, 2号機共用」(以下同じ。)) (新)中央制御室遮蔽(「1号機設備_1, 2号機共用」(以下同じ。))	2022/2/7	
2	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.4	74条基本設計方針での反映事項の水平展開として、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)気体状の放射性物質並びに中央制御室外の火災等・・・ (新)気体状の放射性物質及び中央制御室外の火災等・・・	2022/2/7	
3	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.5	審査ガイドの決定日の記載を追記しました。(下線部参照) (旧)・・・審査ガイド」 (新)・・・審査ガイド」(令和3年6月23日 原規技発第2106233号 原子力規制委員会決定)	2022/2/7	
4	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.7	「2.2 適用基準、適用規格等」に以下2件を追記しました。(下線部参照) ・K.Shibata, et al., “Japanese Evaluated Nuclear Data Library Version 3 Revision-3: JENDL-3.3”, J.Nucl.Sci.Technol., 39, 1125(2002) ・K.Kosako, N.Yamano, T.Fukahori, K.Shibata and A.Hasegawa, “The Libraries FSXLIBand MATXSLIB based on JENDL-3.3”, JAERI-Data/Code 2003-011(2003)	2022/2/7	
5	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.8,9	換気設備の運転モードに関する記載を追記しました。(下線部参照) (旧)(なし) (新)また、炉心の著しい損傷後の格納容器フィルタベント系を作動させる場合に放出される放射性雲通過時において、中央制御室空調換気系は外気との連絡口を遮断し、中央制御室非常用再循環処理装置フィルタを通る系統隔離運転モードとすることにより、中央制御室バウンダリを外気から隔離するとともに、中央制御室待避室を中央制御室空気供給系で正圧化することにより、放射性物質が中央制御室待避室に流入することを一定時間完全に防ぐことができる設計とする。	2022/2/7	
6	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.9	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)10Pa[gage] (新)10Pa	2022/2/7	
7	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.10,11	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)a. 温度及び湿度条件について (新)a. 温度及び湿度条件  (旧)b. 保持容量について (新)b. 保持容量	2022/2/7	
8	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.11	記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)原子炉格納容器破損モード (新)格納容器破損モード	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
9	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.11	酸素濃度計及び二酸化炭素濃度計を使用する状況について、誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)炉心の著しい損傷が発生した場合 (新)重大事故等時	2022/2/7	
10	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.12	全面マスク着用の指示者について誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)当直長 (新)当直副長	2022/2/7	
11	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.12	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)重大事故等対処設備(設計基準拡張)として使用する (新)重大事故等対処設備(設計基準拡張)として使用する。	2022/2/7	
12	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.15	ベントに関する用語を適正化しました。(下線部参照) (旧)原子炉格納容器ベント (新)格納容器ベント	2022/2/7	
13	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.16	各被ばく経路について補助遮蔽について追記しました。(下線部参照) (旧)中央制御室遮蔽を透過して (新)中央制御室遮蔽及び補助遮蔽を透過して	2022/2/7	
14	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.18	文献の名称について誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)NEDO-12154-1, M.F.Rider, Vallecitos Nuclear Center, 1974) (新)NEDO-12154-1, M.E.Meek and B.F.Rider, Vallecitos Nuclear Center, 1974)	2022/2/7	
15	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.18	文献(電力共同研究報告書)からの引用に関する記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)考慮する。 (新)考慮している。	2022/2/7	
16	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.22,86	入退域時の評価について被ばく評価内規の記載に修正しました。(下線部参照) (旧)敷地境界 (新)周辺監視区域境界	2022/2/7	
17	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.23,24,66	巻き込み影響を考慮する建物としてタービン建物の記載が漏れていたことに伴う修正をしました。(下線部参照) (旧)巻き込みを生じる代表建物として、放出源から最も近く、影響が最も大きいと考えられる原子炉建物を選定する。 (新)巻き込みを生じる代表建物として、「原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル」「格納容器フィルタベント系排気管」及び「原子炉建物」は、放出源から最も近く、影響が最も大きいと考えられる原子炉建物を、「排気管(非常用ガス処理系用)」は、同じくタービン建物をそれぞれ選定する。  (旧)原子炉建物 (新)原子炉建物又はタービン建物  (旧)原子炉建物の高さ(48.8m) (新)原子炉建物の高さ(48.8m)又はタービン建物の高さ(33.1m)	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
18	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.24	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)180°を対象する。 (新)180°を対象とする。	2022/2/7	
19	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.24	読み替え済みの用語について記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)「発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針」昭和57年1月28 原子力安全委員会決定、平成13年3月29日一部改訂 (新)気象指針を基に設定。	2022/2/7	
20	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.25	非常用ガス処理系に関する記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)崩壊による減衰及び原子炉建物原子炉棟(二次格納施設)内の非常用ガス処理系による除去 (新)崩壊による減衰及び非常用ガス処理系による除去	2022/2/7	
21	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.26	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)計算条件とする (新)計算対象とする	2022/2/7	
22	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.26	非常用ガス処理系に関する記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)崩壊による減衰及び原子炉建物原子炉棟(二次格納施設)内の非常用ガス処理系により大気へ放出… (新)崩壊による減衰及び非常用ガス処理系により大気へ放出…	2022/2/7	
23	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.27	スカイシャインガンマ線の線源として考慮するタービン建物階層についての誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)タービン建物2階 (新)タービン建物3階	2022/2/7	
24	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.27	注釈引用元の本文記載に合わせてグランドレベルに記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)*3: 地下階は外壁厚さが厚く、地面にも遮られるため十分無視できる。 (新)*3: <u>グランドレベル以下</u> は外壁厚さが厚く、地面にも遮られるため十分無視できる。	2022/2/7	
25	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.28	入退域時の評価点に関する記載を追記しました。(下線部参照) (旧)室内作業時の評価点は、 (新)室内作業時及び入退域時の評価点は、  (旧)図4-29に示す (新)図4-29及び図4-30に示す	2022/2/7	
26	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.28,47	各被ばく経路について補助遮蔽を考慮している記載を追加しました。(下線部参照) (旧)及び中央制御室遮蔽による (新)並びに中央制御室遮蔽及び補助遮蔽による	2022/2/7	
27	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.29,30	各被ばく経路について補助遮蔽も考慮していることから記載を見直しました。(下線部参照) (旧)中央制御室遮蔽厚さによる減衰率(-) (新)遮蔽厚さによる減衰率(-)	2022/2/7	
28	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.32	被ばく評価上、中央制御室の空調を手動隔離操作とする仮定について設計基準事故時のものであることを追記しました。(下線部参照) (旧)被ばく評価上は、 (新)設計基準事故時の被ばく評価上は、	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
29	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.33	設計を評価で考慮する形に記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)できる設計とする。 (新)できる設計を評価で考慮する。	2022/2/7	
30	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.33	中央制御室バウンダリ体積について、外部被ばくの影響を受ける区画の体積を先に記載し、その次に中央制御室バウンダリ内の放射性物質の濃度を計算する場合に使用する体積を記載するよう記載順を見直しました。(下線部参照)  (旧)中央制御室バウンダリ体積は、中央制御室、運転員控室等の中央制御室空調換気系の処理対象となる区画の体積を合計した値に基づくものとし、設計基準事故では保守的に切り上げて18000m <sup>3</sup> を使用*し、炉心の著しい損傷が発生した場合は設計値17150m <sup>3</sup> を使用する。なお、中央制御室内の放射性物質による外部被ばくの影響を受ける区画の体積は2440m <sup>3</sup> とする。 (新)中央制御室バウンダリ体積のうち中央制御室内の放射性物質による外部被ばくの影響を受ける区画の体積は2440m <sup>3</sup> とする。なお、中央制御室内の放射性物質の濃度の計算に使用する中央制御室バウンダリ体積は、中央制御室、運転員控室等の中央制御室空調換気系の処理対象となる区画の体積を合計した値に基づくものとし、設計基準事故では保守的に切り上げて18000m <sup>3</sup> を使用*し、炉心の著しい損傷が発生した場合は設計値17150m <sup>3</sup> を使用する。	2022/2/7	
31	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.34	P.10の記載との整合を取り、誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)中央制御室非常用再循環処理装置の粒子用高効率フィルタの効率は、設計上99.97%以上期待できるが、 (新)中央制御室非常用再循環処理装置の粒子用高効率フィルタの効率は、設計上99.9%以上期待できるが、	2022/2/7	
32	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.39	読み替え済みの用語について記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)放射性ハロゲン等(以下「ハロゲン等」という。) (新)ハロゲン等	2022/2/7	
33	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.40	主蒸気管破断時の評価条件について、誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)(g) 主蒸気隔離弁閉止後、残留熱除去系、逃がし安全弁等を通じて (新)(g) 主蒸気隔離弁閉止後、逃がし安全弁等を通じて	2022/2/7	
34	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.44,50,93,96, 83,98,108,113	表中の数値について約を追記しました。(下線部参照) (旧)〇〇 (新)約〇〇	2022/2/7	
35	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.48	グランドシャインの線量計算に用いる幾何条件について誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)建物の床・天井・壁で自己遮蔽され (新)建物の床・天井・壁で遮蔽され	2022/2/7	
36	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.48	グランドシャインの線量計算に用いる線源について、地表面沈着線源は制御室建物屋上で代表していることから記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)屋上沈着線源と地表面沈着線源 (新)屋上沈着線源	2022/2/7	
37	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.48	SA時の吸入摂取を考慮する核種について誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)及びよう素 (新)及び放射性物質	2022/2/7	
38	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.49	誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)待避室内に待避する。 (新)中央制御室待避室内に待避する。	2022/2/7	
39	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.50	被ばく評価結果について最大となる班の数値として記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)約51mSv (新)最大約51mSv	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
40	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.51,53	酸素濃度及び二酸化炭素濃度評価式に関する記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)酸素のとき (新)酸素の場合	2022/2/7	
41	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.52,55	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)容積 (新)体積	2022/2/7	
42	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.52	技術基準規則第74条の記載に合わせて記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)運転員がとどまるために必要な設備 (新)運転員が原子炉制御室にとどまるために必要な設備	2022/2/7	
43	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.52	酸素消費量、二酸化炭素吐出货量等の設定に関する記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)中央制御室内にとどまる要員 (新)設計基準事故時の評価と同様に、中央制御室内にとどまる運転員	2022/2/7	
44	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.52	用語の統一のため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(3) 酸素濃度及び二酸化炭素濃度の計算 (新)(3) 酸素及び二酸化炭素濃度の計算	2022/2/7	
45	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.54	中央制御室での正圧化維持に必要な空気供給量に関する記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)17160m <sup>3</sup> /hの流量を流した場合 (新)17160m <sup>3</sup> /h以上の流量を流した場合	2022/2/7	
46	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.57	(4)中央制御室待避室内酸素濃度及び二酸化炭素濃度の計算について以下の適正化を行いました。 ・二酸化炭素濃度計算式の番号の誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)(4. 26)を展開した式(4. 27) (新)(4. 28)を展開した式(4. 29)  ・評価結果の表記に合わせて、式中の文字の単位もvol%に修正しました。(下線部参照) (旧)二 (新)vol%  ・酸素濃度及び二酸化炭素濃度評価式に関する記載を適正化しました。 (旧)二酸化炭素のとき (新)二酸化炭素の場合  ・酸素濃度評価式を二酸化炭素評価に置き換える記載について置き換える数値を追記しました。(下線部参照) (旧)二酸化炭素の場合は、二酸化炭素発生量と置き換える。 (新)二酸化炭素の場合は、 <u>室内酸素消費量</u> を二酸化炭素発生量と置き換える。	2022/2/7	
47	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.59	中央制御室待避室遮蔽の温度上昇評価をコンクリートで代表していることについて記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)遮蔽体は主にコンクリートで構成されており、評価上、コンクリートのみとして評価する。 (新)中央制御室遮蔽は主にコンクリート、中央制御室待避室遮蔽は鉄及び鉛で構成されているが、評価上、コンクリートのみとして評価する。	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
48	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.83	表中の記載を修正しました。 表4-12 大気中への放出慮う評価結果(事故後30日間積算)(設計基準事故時) ・放出量に「約」を追記 ・以下記載を適正化(下線部参照) (旧)希ガス (新)希ガス及びハロゲン等 ・主蒸気管破断のよう素 主蒸気隔離弁閉止前(下線部参照) (旧)－ (新)約 $2.8 \times 10^{11}$	2022/2/7	
49	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.84	表中の実効放出継続時間に関する記載を適正化しました。(下線部参照) 表4-13 大気拡散評価条件(設計基準事故時) (旧)最大放出量で除した値に基づき設定 (新)最大放出量で除した値に保守性を見込んだ値として設定	2022/2/7	
50	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.97	表中の評価条件が非常用ガス処理系の運転時間であることが分かるように記載を適正化しました。 (下線部参照) 表4-22 大気中への放出量評価条件 (炉心の著しい損傷が発生した場合)(6/7) (旧)運転時間 (新)非常用ガス処理系の運転時間	2022/2/7	
51	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.101	相対濃度及び相対線量の有効数字以下の処理に関する注記を追記しました。(下線部参照) 表4-25 相対濃度及び相対線量の評価結果(炉心の著しい損傷が発生した場合) (旧)(なし) (新)注記*:被ばく評価には有効数字2桁(3桁目を切り上げ)の相対濃度及び相対線量を用いる。	2022/2/7	
52	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.102,104,106, 107,109,110	表4-26, 表4-28, 表4-30, 4-31, 表4-34, 表4-35の数値処理方法について追記しました。(下線部参照) (旧)(なし) (新)注記*:有効数字3桁目を四捨五入した値を記載	2022/2/7	
53	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.103	注記の参照文献について以下のとおり記載を修正しました。 ・文献の記載について先行プラントの記載を参考に見直しました。(下線部参照) (旧)J.L. Sprung 等:Evaluation of severe accident risks: quantification of major input parameters, NUREG/CR-4551 Vol.2 Rev.1 Part 7, 1990 (新)米国 NUREG/CR-4551 Vol.2 "Evaluation of severe Accident Risks: Quantification of Major Input Parameters" ・誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)*3:米国 NRPB-R322 (新)*3:英国 NRPB-R322	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
54	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.108	表4-32及び表4-33では、中央制御室滞在時だけでなく入退域時においてもマスク考慮の有無が異なるため、表4-32及び表4-33の表タイトルを修正しました。(下線部参照) (旧)表4-32 各班の7日間の中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷が発生した場合)に係る被ばく評価結果の内訳 (中央制御室内でマスクの着用を考慮した場合)*1 (新)表4-32 各班の7日間の中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷が発生した場合)に係る被ばく評価結果の内訳 (マスクの着用を考慮した場合)*1*2  (旧)表4-33 各班の7日間の中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷が発生した場合)に係る被ばく評価結果の内訳(中央制御室内でマスクの着用を考慮しない場合) (新)表4-33 各班の7日間の中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷が発生した場合)に係る被ばく評価結果の内訳(マスクの着用を考慮しない場合)	2022/2/7	
55	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.108	表4-32の注釈に、入退域時においてマスクを考慮している旨を追記しました。 (旧)(なし) (新)*1:入退域時においてマスク(PF=50)の着用を考慮  注記*1の追加に伴い注記番号を修正しました。 (旧)*1 (新)*2 (旧)*2 (新)*3 (旧)*3 (新)*4	2022/2/7	
56	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.108	表4-32及び表4-33注記の記載について誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)7日目2直のD班が中央制御室内滞在中に、8日目1直のB班が交替のため入域することから、この班の入域分を7日目1直のB班の被ばく線量に加えて整理している。 (新)8日目1直のB班の被ばく線量は、7日目1直のB班の被ばく線量に加えて整理している。	2022/2/7	
57	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.108	表4-32及び表4-33注記の記載について表現を統一しました。(下線部参照) (旧)切上げた値 (新)切り上げた値	2022/2/7	
58	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.109	表4-34の表タイトルについて、表現の統一を図るため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)表4-34 各班の7日間の中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷が発生した場合)に係る被ばく評価結果の内訳(マスク着用あり) (新)表4-34 中央制御室(炉心の著しい損傷が発生した場合)の運転員に及ぼす実効線量の内訳(マスクの着用を考慮した場合)*	2022/2/7	
59	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.110	表4-35の表タイトルについて、表現の統一を図るため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)表4-35 各班の7日間の中央制御室の居住性(炉心の著しい損傷が発生した場合)に係る被ばく評価結果の内訳(マスク着用なし) (新)表4-35 中央制御室(炉心の著しい損傷が発生した場合)の運転員に及ぼす実効線量の内訳(マスクの着用を考慮しない場合)*	2022/2/7	
60	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.128	図4-9について、表現の統一を図るため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)炉心の著しい損傷が発生した場合の放射性物質の放出源と評価点(中央制御室空調換気系外気取入口)の位置関係 (新)放射性物質の放出源と評価点(中央制御室空調換気系外気取入口)の位置関係(炉心の著しい損傷が発生した場合)	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
61	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.129	図4-10について、表現の統一を図るため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 炉心の著しい損傷が発生した場合の放射性物質の放出源と評価点(中央制御室空中心)の位置関係 (新) 放射性物質の放出源と評価点(中央制御室中心)の位置関係(炉心の著しい損傷が発生した場合)	2022/2/7	
62	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.130	図4-11について、表現の統一を図るため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 炉心の著しい損傷が発生した場合の放射性物質の放出源と評価点(2号機原子炉補機冷却系熱交換器室入口)の位置関係 (新) 放射性物質の放出源と評価点(2号機原子炉補機冷却系熱交換器室入口)の位置関係(炉心の著しい損傷が発生した場合)	2022/2/7	
63	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.138~146	評価方位図について評価点ごとに図の掲載順を見直しました。 (旧) 放出源 評価点 図4-19 原子炉建物 × 外気取入口 図4-20 原子炉建物 × 中央制御室中心 図4-21 原子炉建物 × R/B熱交室入口 図4-22 排気筒 × 外気取入口 図4-23 排気筒 × 中央制御室中心 図4-24 排気筒 × R/B熱交室入口 図4-25 FCVS × 外気取入口 図4-26 FCVS × 中央制御室中心 図4-27 FCVS × R/B熱交室入口  (新) 放出源 評価点 図4-19 排気筒 × 中央制御室中心 図4-20 FCVS × 中央制御室中心 図4-21 原子炉建物 × 中央制御室中心 図4-22 排気筒 × R/B熱交室入口 図4-23 FCVS × R/B熱交室入口 図4-24 原子炉建物 × R/B熱交室入口 図4-25 排気筒 × 外気取入口 図4-26 FCVS × 外気取入口 図4-27 原子炉建物 × 外気取入口	2022/2/7	
64	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.148	図4-29(1/4)のサブタイトルについて、何を表しているかを明確化するため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(原子炉冷却材喪失及び炉心の著しい損傷が発生した場合の評価モデル) (新)(原子炉冷却材喪失及び炉心の著しい損傷が発生した場合の中央制御室滞在時の評価点)	2022/2/7	
65	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.149	図4-29(2/4)のサブタイトルについて、何を表しているかを明確化するため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)(原子炉冷却材喪失及び炉心の著しい損傷が発生した場合の評価モデル) (新)(原子炉冷却材喪失及び炉心の著しい損傷が発生した場合の直接ガンマ線評価モデル)	2022/2/7	



No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
66	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.150	図4-29(3/4)のサブタイトルについて、何を表しているかを明確化するため、記載を適正化しました。 (下線部参照) (旧) (原子炉冷却材喪失及び炉心の著しい損傷が発生した場合の) 評価モデル (新) (原子炉冷却材喪失及び炉心の著しい損傷が発生した場合の <u>スカイシャインガンマ線</u> 評価モデル)	2022/2/7	
67	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.153	図4-31(1/4)のサブタイトルについて、何を表しているかを明確化するため、記載を適正化しました。 (下線部参照) (旧) 図4-31 主蒸気管破断時の直接ガンマ線評価モデル(1/4) (新) 図4-31 主蒸気管破断時の評価モデル(1/4) ( <u>中央制御室滞在時の評価点</u> )	2022/2/7	
68	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.154	図4-31(2/4)のサブタイトルについて、何を表しているかを明確化するため、記載を適正化しました。 (下線部参照) (旧) 図4-31 主蒸気管破断時の直接ガンマ線評価モデル(2/4) (新) 図4-31 主蒸気管破断時の評価モデル(2/4) ( <u>直接ガンマ線</u> )	2022/2/7	
69	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.155	図4-31(3/4)のサブタイトルについて、何を表しているかを明確化するため、記載を適正化しました。 (下線部参照) (旧) 図4-31 主蒸気管破断時のスカイシャインガンマ線評価モデル(3/4) (新) 図4-31 主蒸気管破断時の評価モデル(3/4) ( <u>スカイシャインガンマ線</u> )	2022/2/7	
70	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.156	図4-31(4/4)のサブタイトルについて、何を表しているかを明確化するため、記載を適正化しました。 (下線部参照) (旧) 図4-31 主蒸気管破断時の直接ガンマ線及びスカイシャインガンマ線の評価点位置(入退域時の被ばく)(4/4) (新) 図4-31 主蒸気管破断時の評価モデル(4/4) (入退域時の評価点)	2022/2/7	
71	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.157,158	図4-32のタイトルについて、待避室バウンダリの記載を追加しました。(下線部参照) (旧) 図4-32 中央制御室バウンダリ体積(1/2) (新) 図4-32 中央制御室及び中央制御室待避室バウンダリ体積(1/2)  (旧) 図4-32 中央制御室待避室体積(2/2) (新) 図4-32 <u>中央制御室及び中央制御室待避室バウンダリ体積(2/2)</u>	2022/2/7	
72	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.176	表1-1空気流入率測定試験の適用条件「①中央制御室の空気流入率が別区画に比べて小さいこと」の備考欄の記載が抜けていたため追記しました。 (旧) (なし) (新) 均一化の目安を満足している。	2022/2/7	
73	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.176	表1-1空気流入率測定試験の適用条件「③中央制御室以外の空気流入率が大きい区画に、立入規制等の管理的措置を各種マニュアル等に明記し、運転員へ周知すること。」の備考欄の記載を見直しました。(下線部参照) (旧) 中央制御室バウンダリ内を包含するリーク率で評価している。 (新) 特定の区画を除外せず、すべての区画を包含するリーク率で評価している。	2022/2/7	
74	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.178	フィルタ名称について記載を適正化しました。(下線部参照) (旧) 中央制御室空調換気系の中央制御室非常用再循環処理装置フィルタは、設置場所において想定される放射性微粒子及びびよう素に対し、除去効率(性能)を維持できるように、十分な放射性微粒子保持容量及びびよう素吸着容量を有する設計とする。 (新) 中央制御室非常用再循環処理装置の粒子用高効率フィルタ及びビャコールフィルタは、十分な保持容量及び吸着容量を有する設計とする。以下に放射性微粒子保持容量及びびよう素吸着容量を示す。	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
75	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.178	放射性物質を含む微粒子について記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)1.粒子用高効率フィルタの微粒子保持容量 (新)1.粒子用高効率フィルタの放射性微粒子保持容量  (旧)中央制御室非常用再循環処理装置フィルタの粒子用高効率フィルタ保持容量は、約13kgである。 (新)中央制御室非常用再循環処理装置の粒子用高効率フィルタの放射性微粒子保持容量は、1式で約13kgとなる。	2022/2/7	
76	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.178	記載の構成を見直しました。(下線部参照) (旧)中央制御室非常用再循環処理装置フィルタのチャコールフィルタのよう素吸着容量は約2.6kg*である。 注記*:よう素吸着能力は、米国R.G.1.52より活性炭1kg当たり2.5gである。中央制御室非常用再循環処理装置フィルタのチャコールフィルタの充てん量は、約1072kgであることから、吸着容量は、約2.6kg(2.5g/kg×1072kg)である。  (新)中央制御室非常用再循環処理装置のチャコールフィルタの活性炭充てん量は、約1072kgであり、よう素吸着容量は約2.6kgとなる。	2022/2/7	
77	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.178	表2-1についてタイトルが記載されていなかったため追記しました。 (旧)(なし) (新)表2-1 中央制御室非常用再循環処理装置のフィルタ保持容量及び吸着容量	2022/2/7	
78	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.180	被ばく評価上の交替要員体制の考慮について記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)仮に通常通りに運転員を確保できない場合として4直2交替を仮定 (新)日勤班を考慮しないものとして4直2交替を仮定	2022/2/7	
79	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.180	評価時間計算の考え方を追記しました。 (旧)(なし) (新)2交替における平均的な中央制御室滞在時間を1回あたり12時間として4直2交替における30日間の平均滞在時間を以下のように求める。  (旧)(なし) (新)入退域(片道)に必要な時間を15分として4直2交替における30日間の平均入退域所要時間を以下のように求める。	2022/2/7	
80	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.181	被ばく評価の勤務形態について、記載を見直しました。(下線部参照)  ・(1)しかない項目番号の削除 (旧)(1) 中央制御室居住性評価で想定する勤務形態 (新)(なし)  ・以下記載の位置を移動 「想定する勤務体系は表3-1に示すとおりである。」 (旧)「被ばく評価の勤務形態については、・・・」の параグラフの後 (新)「被ばく評価の勤務形態については、・・・」の параグラフの前	2022/2/7	
81	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.181	入退域の考慮及び直交替による班ごとの評価の方法について追記しました。 (旧)(なし) (新)なお、入退域時の被ばく評価については、入退域(片道)に必要な時間を15分とし評価を行った。 炉心の著しい損傷が発生した場合の被ばく線量は、班ごとに評価する。班ごとの評価期間中の積算線量は、被ばく経路ごとに、評価期間中の中央制御室滞在及び入退域ごとの被ばく線量を評価し、合算することで算出する。	2022/2/7	

No.	図書番号	図書名称	該当頁 (通し頁)	適正化内容	提出年月日	備考
82	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.183,184	ブローアウトパネルに関する用語の統一化を図るため、記載を適正化しました。(下線部参照) (旧)原子炉建物ブローアウトパネル (新)原子炉建物燃料取替階ブローアウトパネル及び主蒸気管トンネル室ブローアウトパネル	2022/2/7	
83	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.183	内規からの引用記載に関する誤記を修正しました。(下線部参照) (旧)排気筒と原子炉建物 (新)排気筒と原子炉建屋	2022/2/7	
84	NS2-添1-058	VI-1-7-3 中央制御室の居住性に関する説明書	P.185	非常用ガス処理系の起動時間(60分)は評価上無関係であるため、負圧達成(70分)以降の記載として見直しました。(下線部参照) (旧)事象発生60分以降、常設代替交流電源設備によって電源が復旧し、非常用ガス処理系を起動し、事象発生70分後に原子炉建物原子炉棟(二次格納施設)内の負圧を確保することを想定し、 (新)事象発生70分以降、非常用ガス処理系によって原子炉建物原子炉棟(二次格納施設)内の負圧を維持している期間については、	2022/2/7	